

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人新潟大学

## 1 全体評価

新潟大学は、高志の大地に育まれた敬虔質実の伝統と世界に開かれた海港都市の進取の精神に基づき、自律と創生を全学の理念に掲げ、教育と研究を通じて、人類の知の継承・創造、世界の平和と発展に貢献するとともに、日本海側ラインの中心新潟にあるという特色を活かして、新潟からアジア、世界に発信するネットワークを構築し、国際的な広がりを持った地域創生に寄与することを目標に定めている。第3期中期目標期間においては、学位プログラムを深化させ、地域に根ざし世界で活躍できる課題発見・解決能力に富んだ職業人を養成すること、並びに強みを生かし特色のある研究を推進すること等を通じて地域に貢献することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、「学位プログラム評価」の基本枠組みを策定し、学位プログラムの推進を中核とした教学システム改革を推進するとともに、「環東アジア地域教育研究ネットワーク」の設置により教育研究や地域貢献に関する情報公開に積極的に取り組むなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

### （「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 教育戦略統括室教育プログラム評価部門を中心として、教育プログラムの質保証と評価の課題について検討をすすめ、『新潟大学における「学位プログラム評価」の基本枠組み』を策定している。（ユニット「新潟大学型質保証による学位プログラムの推進を中核とした教学システム改革」に関する取組）
- 人文社会・教育科学の諸分野を横断して行われる研究、教育及び社会貢献の推進を目的として、「環東アジア地域教育研究センター」を設置するとともに、「環東アジア地域教育研究ネットワーク」を設置し、環東アジアに関わる教育研究や地域貢献に関する情報公開と情報収集のためのウェブサイトを開発するなど、環東アジア地域の教育研究機能の強化に取り組んでいる。（ユニット「環東アジア地域教育研究拠点形成と地域社会への還元システム構築」に関する取組）
- 脳疾患先端医療を実践するクリニカルリサーチセンターの設立に向けた基盤整備のため、運用機能を有する「臨床研究推進センター」を設立し、組織の強化を図っている。（ユニット「脳リソースを活用した脳疾患臨床研究プラットフォームの確立」に関する取組）

## 2 項目別評価

### <評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成28年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

#### (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

#### (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

---

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ 歯学教育の高度化

大学間連携共同教育推進事業における、共通教材の開発、病態顎模型の完成、技能教育の客観的評価法の開発等の成果が、他大学の教育プログラムの構築、臨床実習終了時技能評価試験、モデル・コア・カリキュラム、歯科医師国家試験出題基準等に非常に大きなインパクトを与えていると評価されるとともに、この事業で開発した評価法の合格を臨床実習終了の要件と規定し、臨床実習終了時の技能、態度の担保を図っている。また、事業終了後も継続的に臨床実習終了後技能評価実技試験等に関連する取組を実施するため、学長裁量経費を措置し、東北大学、広島大学との3大学共同講義や連携スクールを実施している。

### 附属病院関係

(教育・研究面)

#### ○ 臨床研究推進センターの設置

臨床研究支援組織の一元化と拡充を図るため、シーズ探索とその実用化に向けた育成支援等を行う臨床研究開発戦略部門、研究品質管理等コンサルテーションを行う臨床研究品質管理部門、治験・臨床研究の実施支援を行う臨床研究実施部門、広報・審査委員会事務局運営を行う運営管理部門の4部門からなる「臨床研究推進センター」を設置し、臨床研究の実施相談・実施計画の立案等の研究支援を開始し9件の新規臨床研究サポートを実施している。

(診療面)

#### ○ 患者総合サポートセンターによるワンストップサービスの提供

入退院センターを周術期の術前スクリーニングを充実させるため、また地域保健医療推進部、医療相談室を加えて一体運用・情報共有・協同支援体制とするため、「患者総合サポートセンター」に再編し、入退院に限らず全ての医療相談等に対するワンストップサービスの提供ができる体制を構築している。

(運営面)

#### ○ 戦略企画室の設置による経営戦略の策定

病院長のリーダーシップの下で戦略的に取り組むべき課題についての企画立案を行う、医師中心の多職種組織として「戦略企画室」を設置し、手術室及びMRI検査室の効率的な稼働等、病院経営に関する企画立案機能の強化に取り組んでいる。